

3. 高齢者お達者プランの策定状況について

(1) 在宅介護実態調査について



加賀市健康福祉部介護福祉課

令和 8 年 9 月 3 日

在宅介護実態調査

目的	第10期介護保険事業計画の策定において、これまでの「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点を盛り込むため、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスのあり方を検討する。	
調査対象者	在宅で生活をしている要支援・要介護認定者 (ただし、施設等の入居者を除く)	
発送日	令和8年3月2日	(回収期間:3月27日まで)
発送数	1,870件(郵送方式)	
回収数	925件(回収率:49.5%)	
調査項目数	26項目	
設問内容	【基本調査項目(国基準)】 ・世帯類型 ・サービス利用状況 ・介護保険サービス以外の支援やサービス利用状況 ・施設等への入居・入所の希望 ・家族等の介護の有無 ・介護者の就労制約の可否に係る意識 ・家族等介護者が不安に感じている介護	【市独自項目】(第3回審議会で報告予定) ・同居の有無 ・介護者の主観的健康感 ・現在のサービスで不足していることや必要としている支援内容 ・ケアマネジャーのシャドーワークの状況
その他	回収後、認定情報と関連付け	

基本調査項目のまとめ

- 介護者が不安に感じる介護は、軽度者では「外出の付き添い、送迎等」、中度者では「認知症状への対応」、重度者では「夜間・日中の排泄」が多い。(P4・5)
- 働いていない介護者のうち50代未満のものが10%存在する。(P10)
- 介護者が本人の在宅生活の継続に必要と感じるサービスは、「外出同行(通院支援)」、「移送サービス(介護タクシー)」、「家事(掃除・洗濯)」、「配食サービス」である。(P18-20)
- 上記のニーズは単身世帯で高い。
- 上記は要支援1・2のニーズが高い。見守り・声かけについては要介護1・2のニーズが高い。

基本調査項目のまとめ

- 独居の要介護1以上のサービスの組み合わせとしては「訪問系を含む組み合わせ」が最も高い。また、夫婦のみ世帯の場合は、「通所系・短期系のみ」の利用が高い状況である。(P21)
- 要介護5の半数以上が訪問診療を利用している。(P25)
- サービス未利用の理由としては、「サービスを利用するほどの状態ではない」が最も高い。(P26)
- 保険サービス外の生活支援への期待が大きい。

検討課題

- 軽・中度者に向けた介護保険サービス外の生活支援の充実
例えば、地域資源（配食サービス、移動販売、宅配、入浴施設、介護タクシー、乗り合い号 等）の活用
資源マップの見える化の検討
- 在宅での独居高齢者を支えるうえでは、「訪問系を含む組み合わせ」の機能の充実
- 家族介護者が在宅介護を行うために必要な知識の提供
- 持続可能な訪問診療体制（医療と介護の連携）の検討

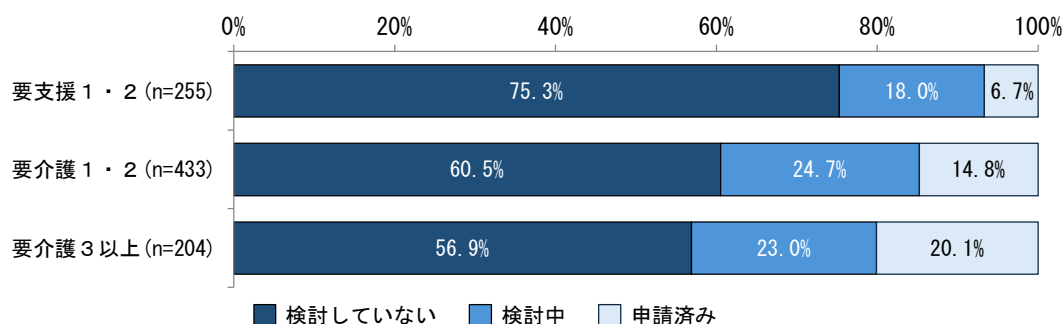
第3章 集計結果

1. 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

(1) 施設等への入所・入居の検討の状況

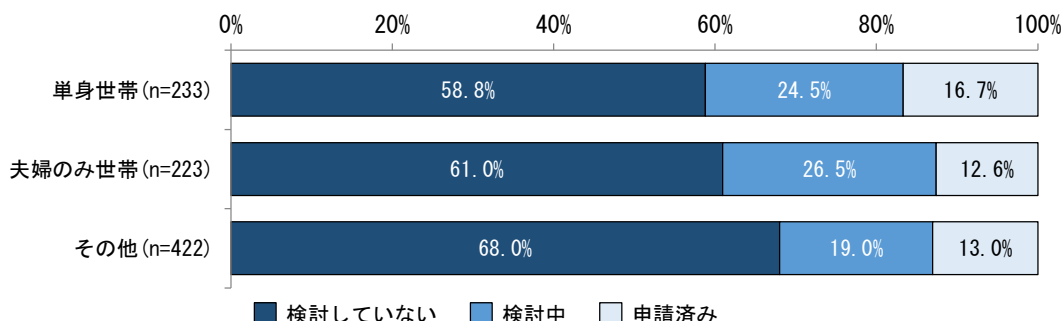
① 要介護度別・施設等検討の状況

施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が75.3%で最も高く、次いで「検討中」が18.0%、「申請済み」が6.7%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が60.5%で最も高く、次いで「検討中」が24.7%、「申請済み」が14.8%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が56.9%で最も高く、次いで「検討中」が23.0%、「申請済み」が20.1%となっています。



② 世帯類型別・施設等検討の状況

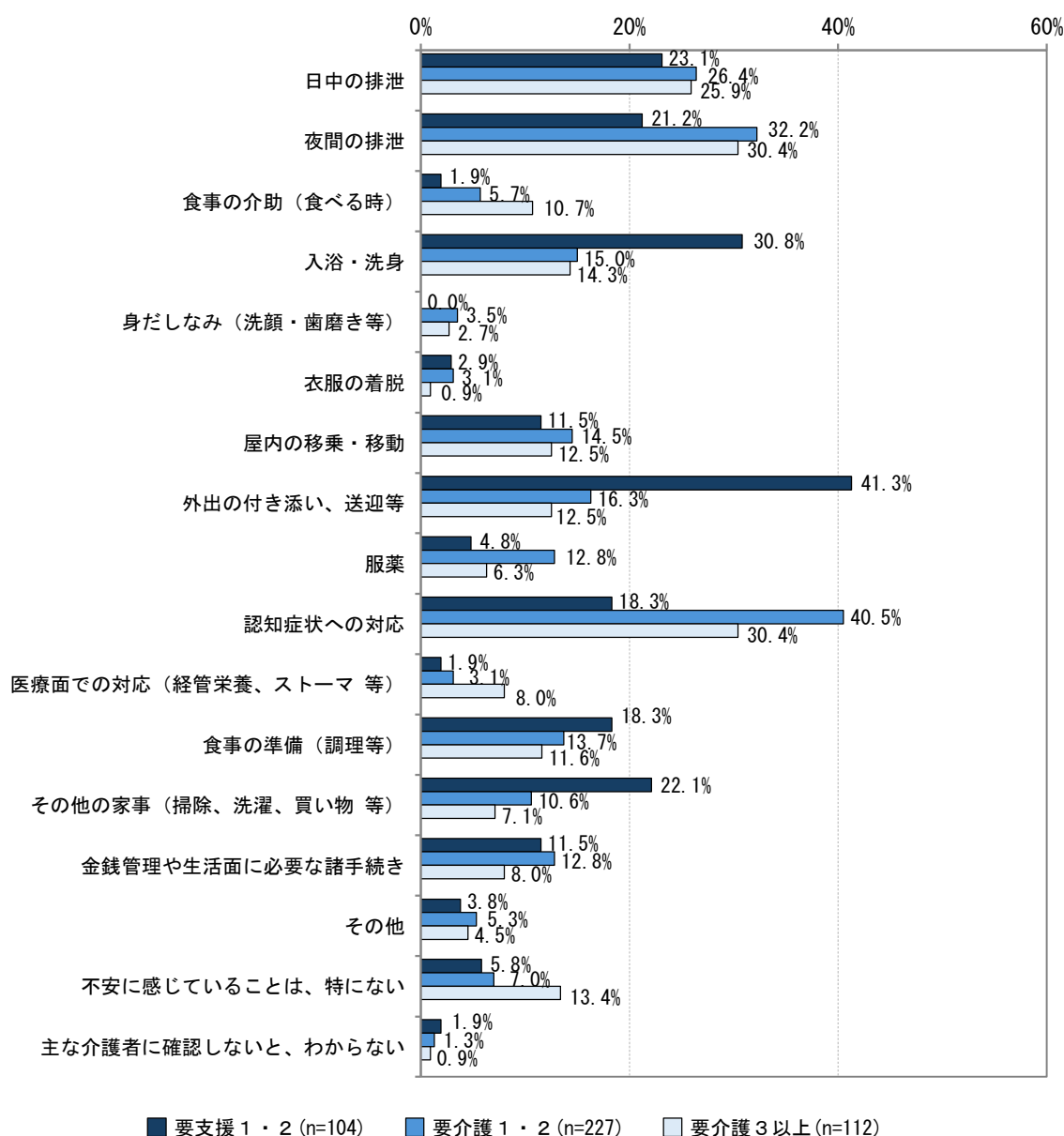
施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が58.8%で最も高く、次いで「検討中」が24.5%、「申請済み」が16.7%となっています。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が61.0%で最も高く、次いで「検討中」が26.5%、「申請済み」が12.6%となっています。「その他」では「検討していない」が68.0%で最も高く、次いで「検討中」が19.0%、「申請済み」が13.0%となっています。



（２）要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

① 要介護度別・介護者が不安に感じる介護

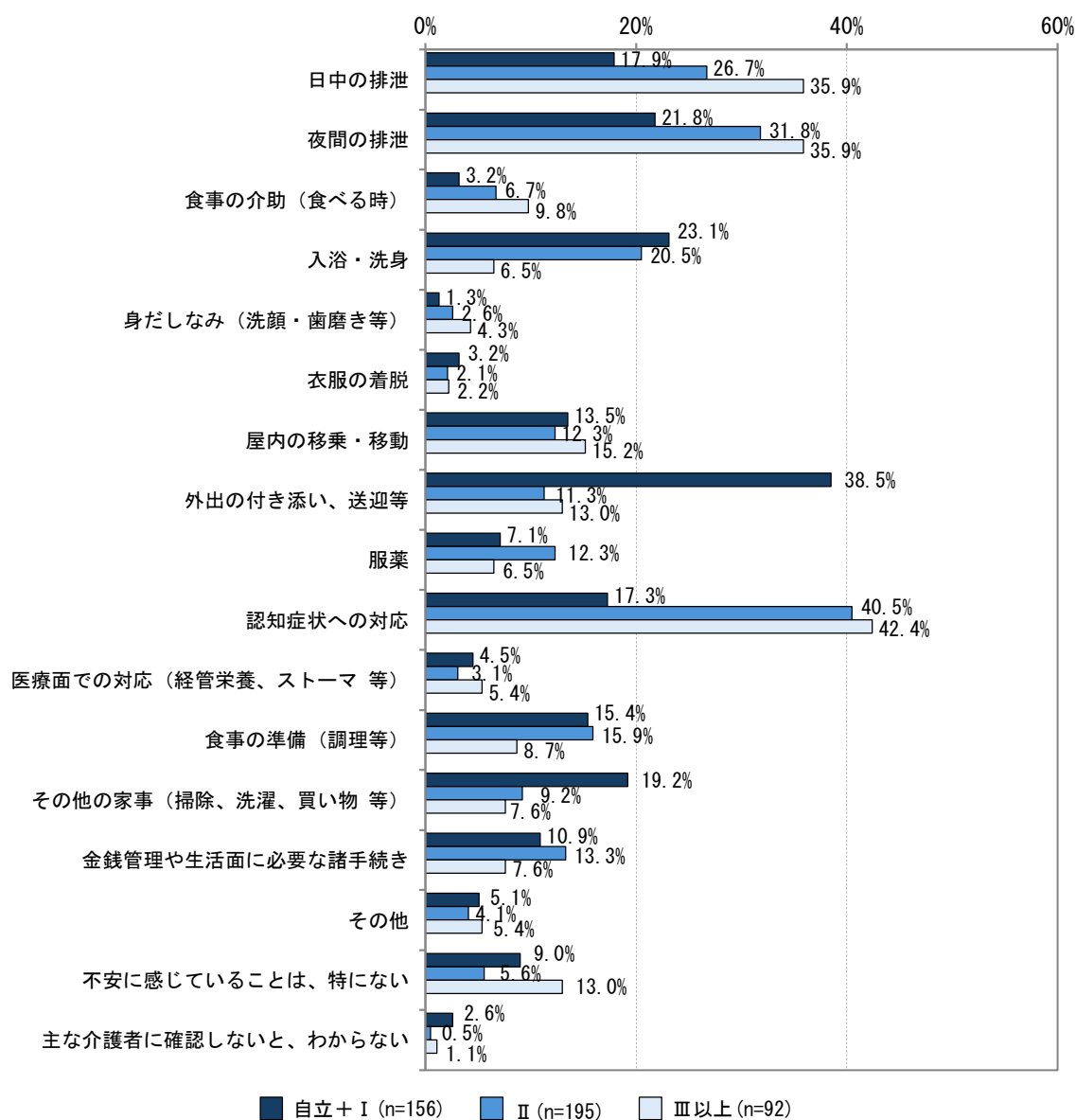
介護者が不安に感じる介護を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「外出の付き添い、送迎等」が41.3%で最も高く、次いで「入浴・洗身」が30.8%、「日中の排泄」が23.1%となっています。「要介護１・２」では「認知症状への対応」が40.5%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が32.2%、「日中の排泄」が26.4%となっています。「要介護３以上」では「夜間の排泄」と「認知症状への対応」がそれぞれ30.4%で最も高く、次いで「日中の排泄」が25.9%となっています。



② 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

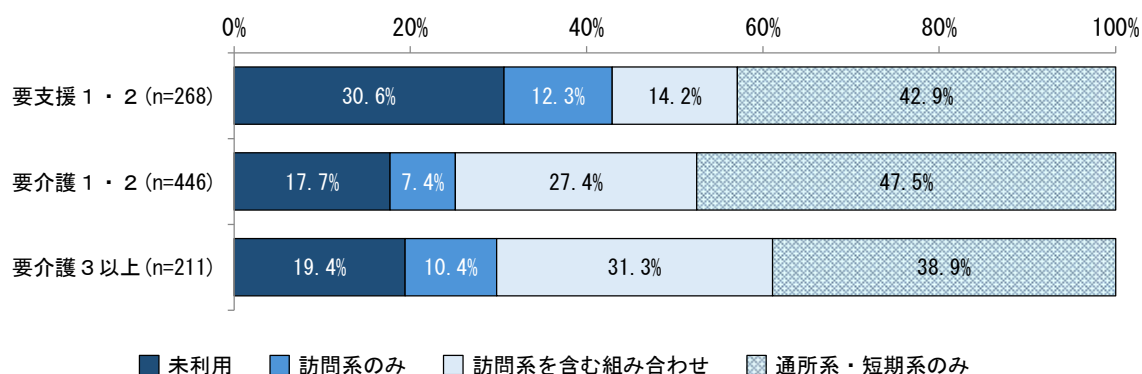
介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が38.5%で最も高く、次いで「入浴・洗身」が23.1%、「夜間の排泄」が21.8%となっています。

「Ⅱ」では「認知症状への対応」が40.5%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が31.8%、「日中の排泄」が26.7%となっています。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が42.4%で最も高く、次いで「日中の排泄」と「夜間の排泄」がそれぞれ35.9%となっています。



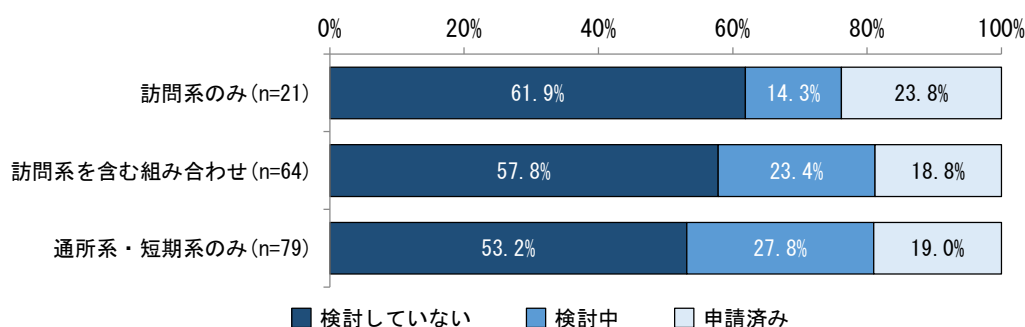
（３）要介護度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援１・２」では「通所系・短期系のみ」が42.9%で最も高く、次いで「未利用」が30.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が14.2%となっています。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が47.5%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.4%、「未利用」が17.7%となっています。「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が38.9%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が31.3%、「未利用」が19.4%となっています。



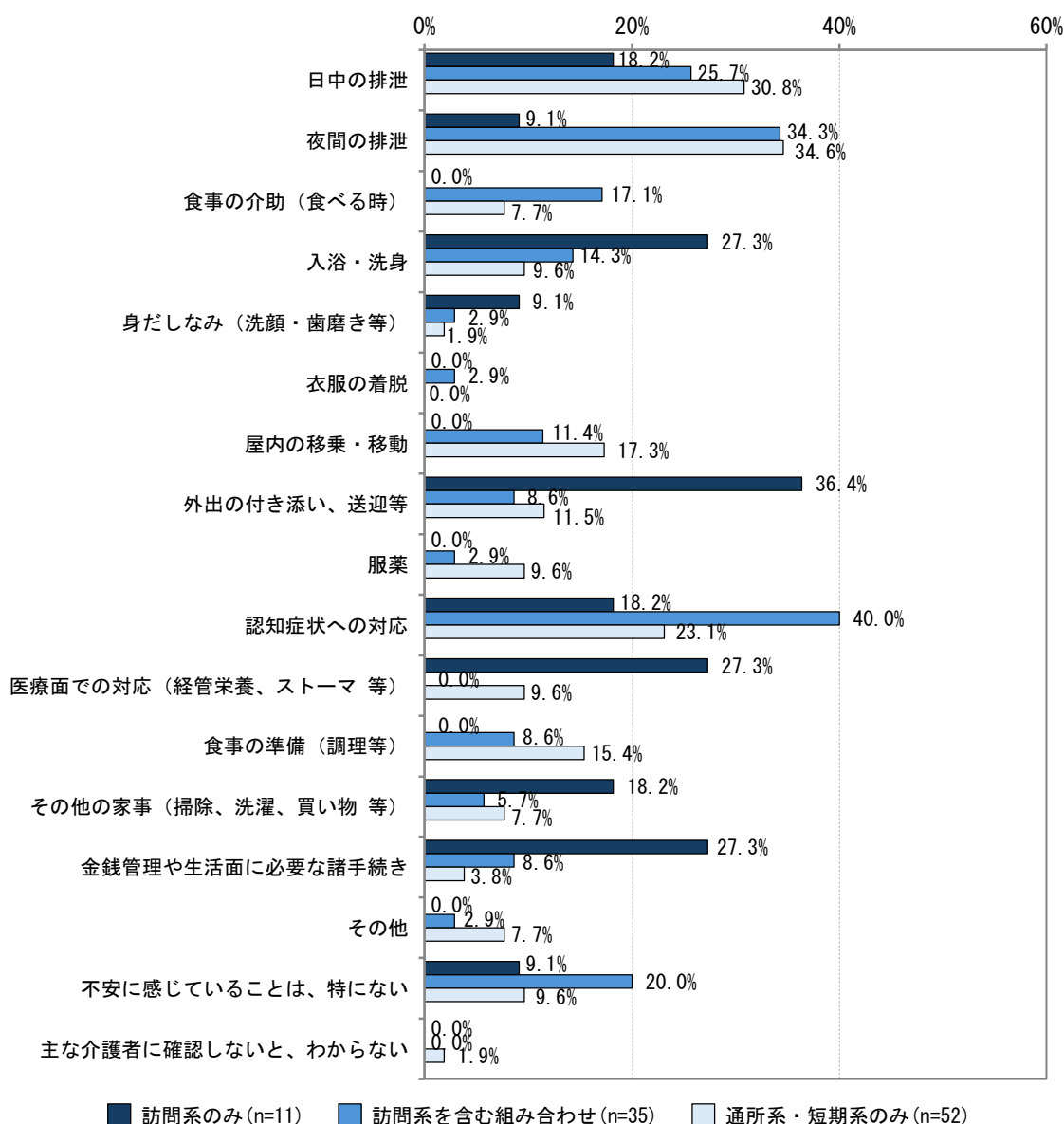
（４）「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

要介護３以上の施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が61.9%で最も高く、次いで「申請済み」が23.8%、「検討中」が14.3%となっています。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が57.8%で最も高く、次いで「検討中」が23.4%、「申請済み」が18.8%となっています。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が53.2%で最も高く、次いで「検討中」が27.8%、「申請済み」が19.0%となっています。



(5) サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護の関係

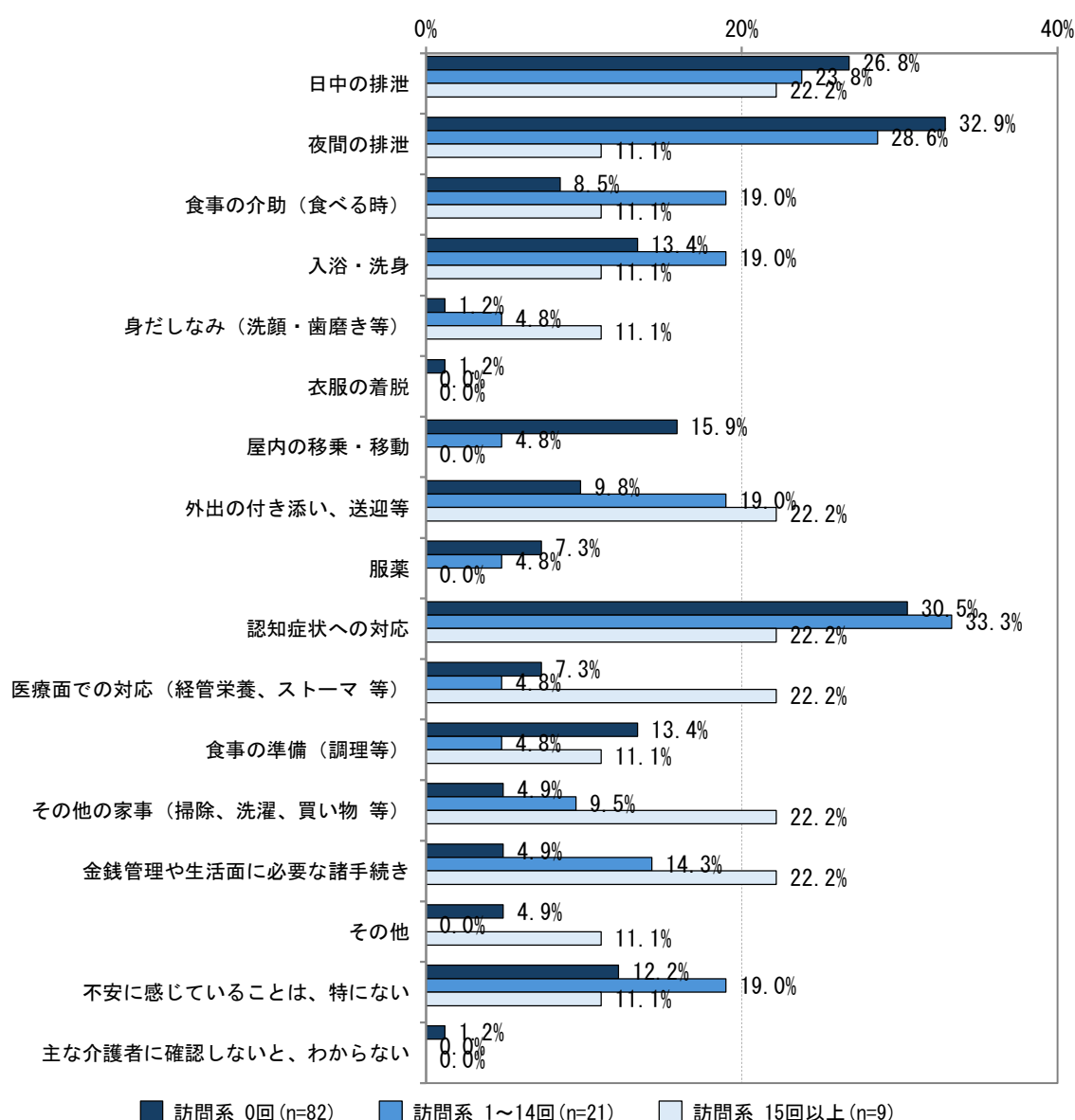
要介護3以上において介護者が不安に感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「外出の付き添い、送迎等」が36.4%で最も高く、次いで「入浴・洗身」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がそれぞれ27.3%となっています。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が40.0%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が34.3%、「日中の排泄」が25.7%となっています。「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」が34.6%で最も高く、次いで「日中の排泄」が30.8%、「認知症状への対応」が23.1%となっています。



（６）サービス利用の回数と介護者が不安に感じる介護の関係

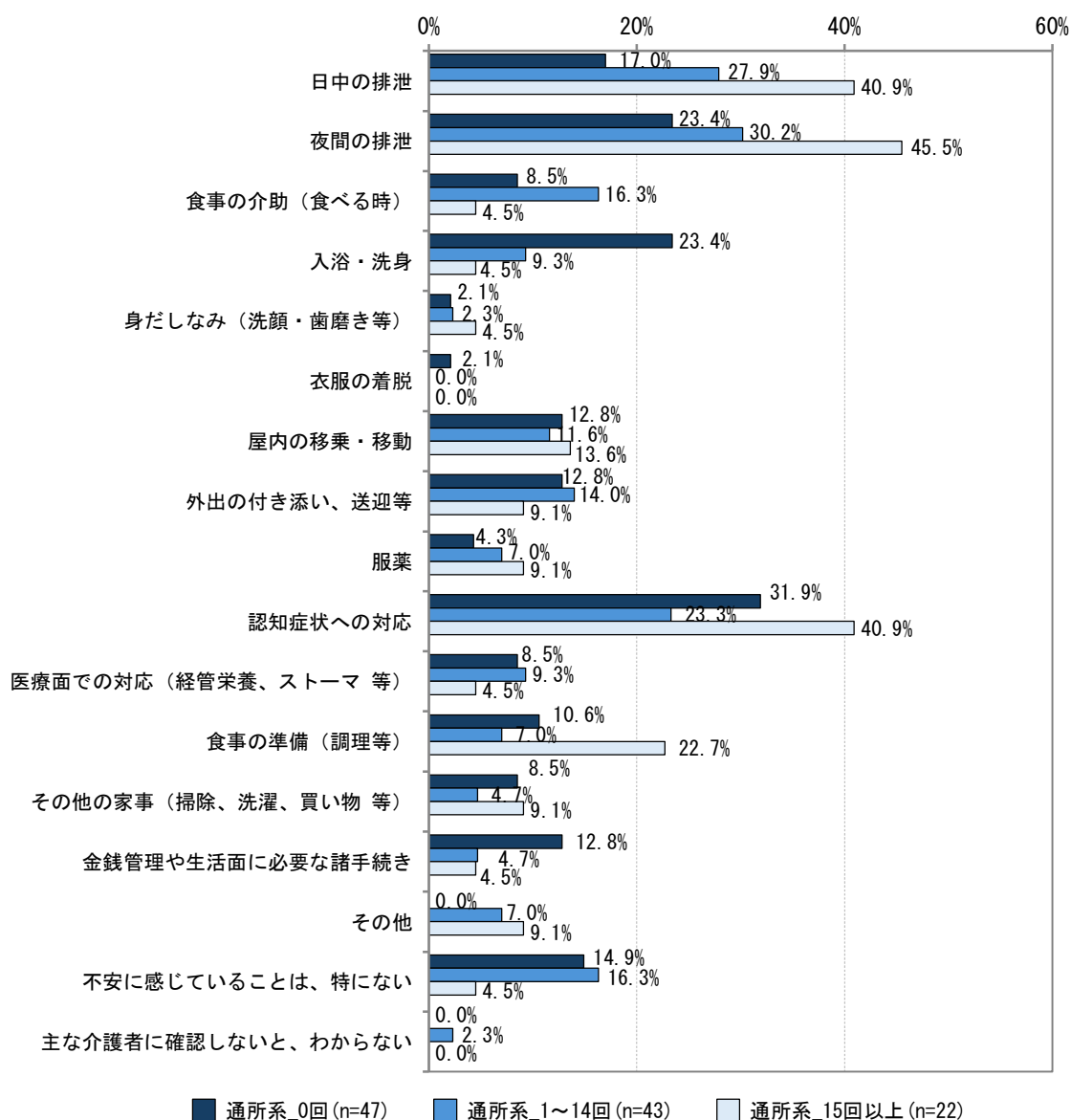
① サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護（訪問系、要介護３以上）

要介護３以上における介護者が不安に感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」が32.9%で最も高く、次いで「認知症状への対応」が30.5%、「日中の排泄」が26.8%となっています。「訪問系_1～14回」では「認知症状への対応」が33.3%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が28.6%、「日中の排泄」が23.8%となっています。「訪問系_15回以上」では「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がそれぞれ22.2%で最も高くなっています。



② サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護（通所系、要介護3以上）

要介護3以上における介護者が不安に感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「認知症状への対応」が31.9%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が23.4%、「入浴・洗身」がそれぞれ23.4%となっています。「通所系_1～14回」では「夜間の排泄」が30.2%で最も高く、次いで「日中の排泄」が27.9%、「認知症状への対応」が23.3%となっています。「通所系_15回以上」では「夜間の排泄」が45.5%で最も高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」がそれぞれ40.9%となっています。

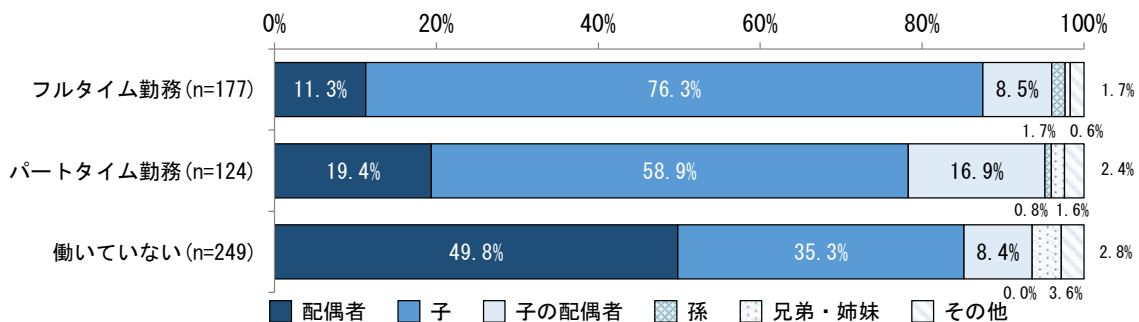


2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 就労状況別の主な介護者および本人の属性

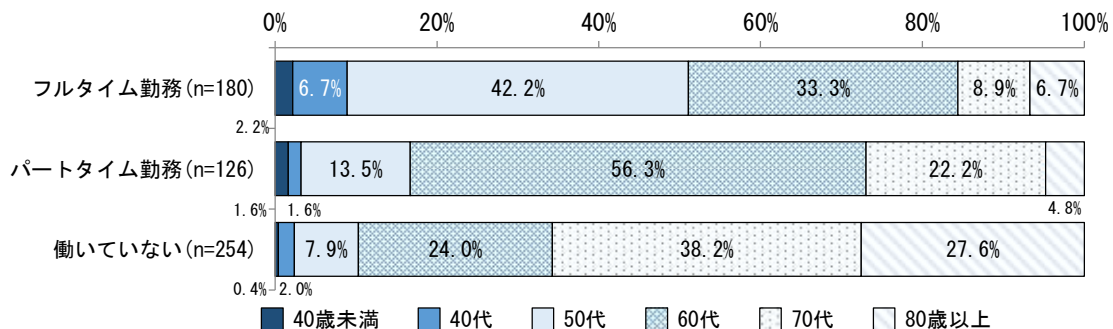
① 就労状況別・主な介護者の本人との関係

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が76.3%で最も高く、次いで「配偶者」が11.3%、「子の配偶者」が8.5%となっています。「パートタイム勤務」では「子」が58.9%で最も高く、次いで「配偶者」が19.4%、「子の配偶者」が16.9%となっています。「働いていない」では「配偶者」が49.8%で最も高く、次いで「子」が35.3%、「子の配偶者」が8.4%となっています。



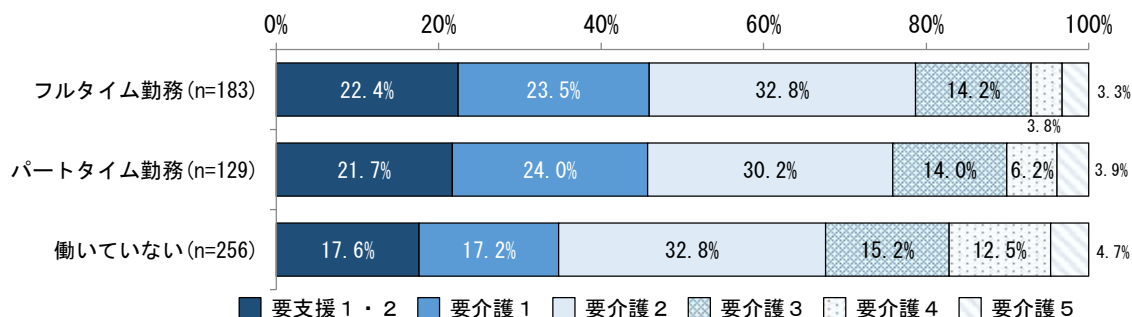
② 就労状況別・主な介護者の年齢

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50代」が42.2%で最も高く、次いで「60代」が33.3%、「70代」が8.9%となっています。「パートタイム勤務」では「60代」が56.3%で最も高く、次いで「70代」が22.2%、「50代」が13.5%となっています。「働いていない」では「70代」が38.2%で最も高く、次いで「80歳以上」が27.6%、「60代」が24.0%となっています。



③ 就労状況別・要介護度

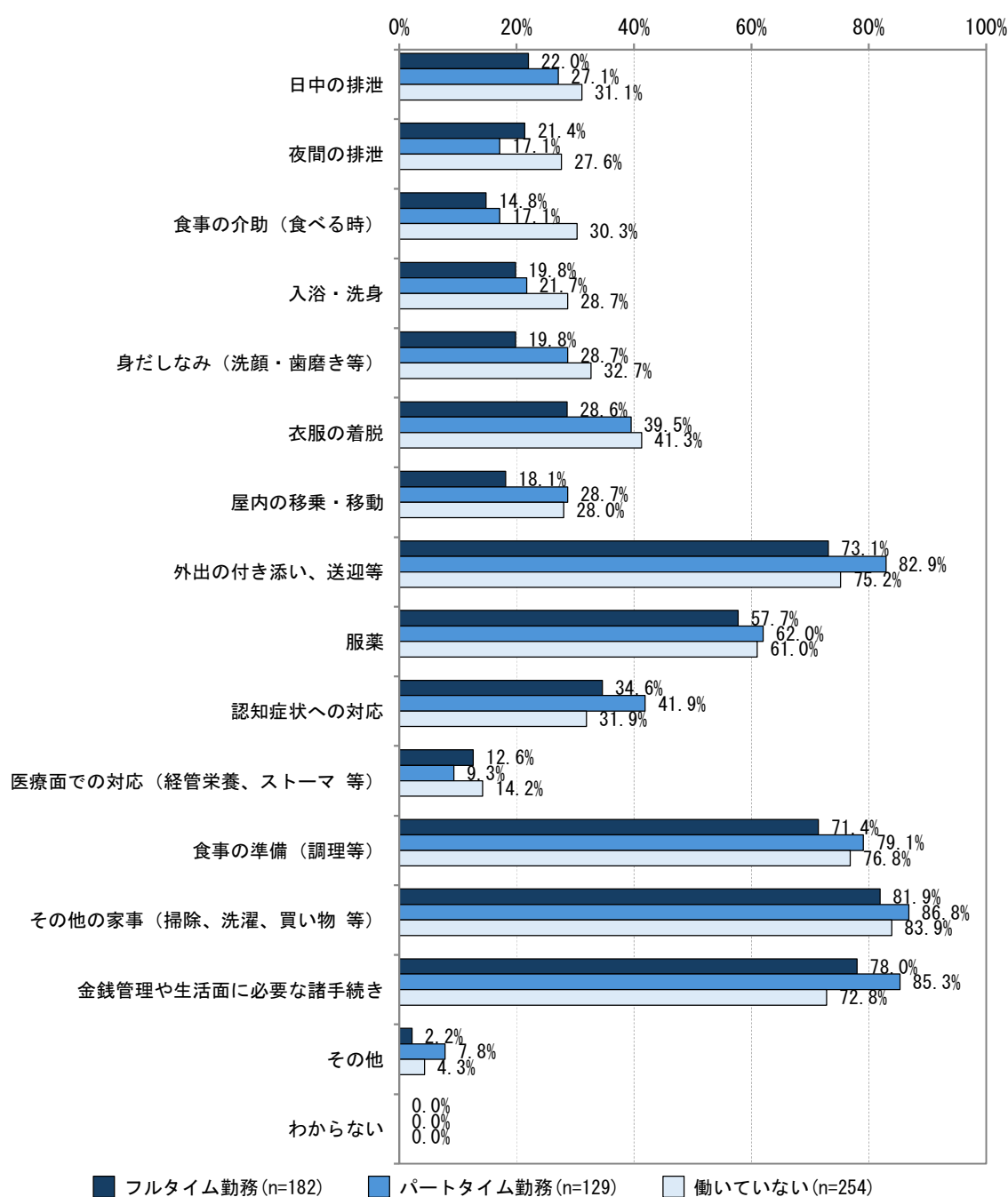
二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護2」が32.8%で最も高く、次いで「要介護1」が23.5%、「要支援1・2」が22.4%となっています。「パートタイム勤務」では「要介護2」が30.2%で最も高く、次いで「要介護1」が24.0%、「要支援1・2」が21.7%となっています。「働いていない」では「要介護2」が32.8%で最も高く、次いで「要支援1・2」が17.6%、「要介護1」が17.2%となっています。



（２）就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

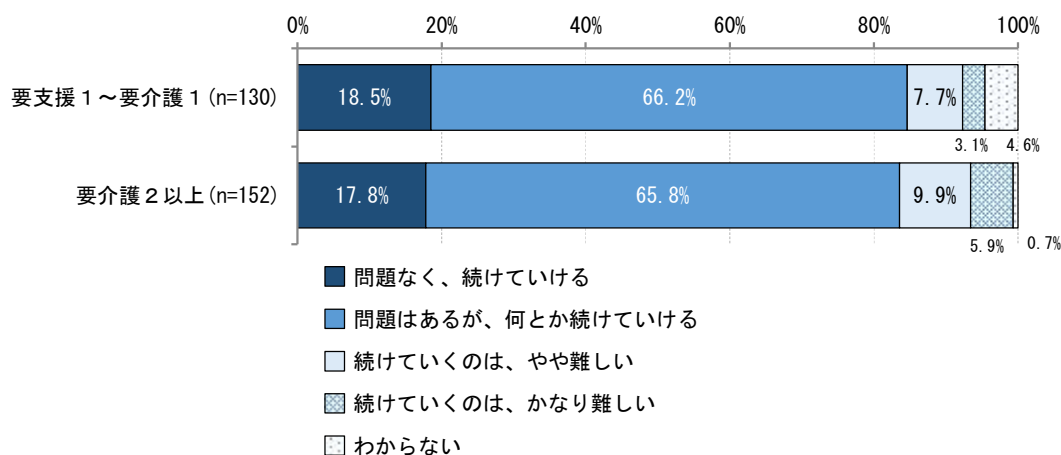
① 就労状況別・主な介護者が行っている介護

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が81.9%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が78.0%、「外出の付き添い、送迎等」が73.1%となっています。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が86.8%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が85.3%、「外出の付き添い、送迎等」が82.9%となっています。「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が83.9%で最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」が76.8%、「外出の付き添い、送迎等」が75.2%となっています。



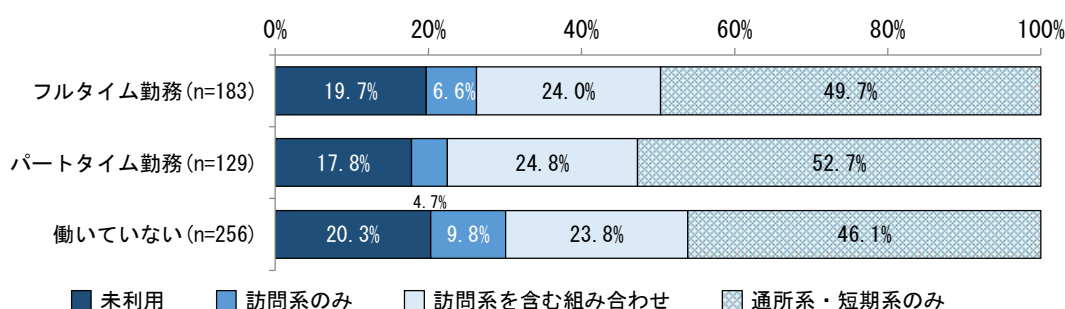
② 要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)

介護者の就労継続の可否に係る意識を要介護度別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が66.2%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が18.5%、「続けていくのは、やや難しい」が7.7%となっています。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が65.8%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が17.8%、「続けていくのは、やや難しい」が9.9%となっています。



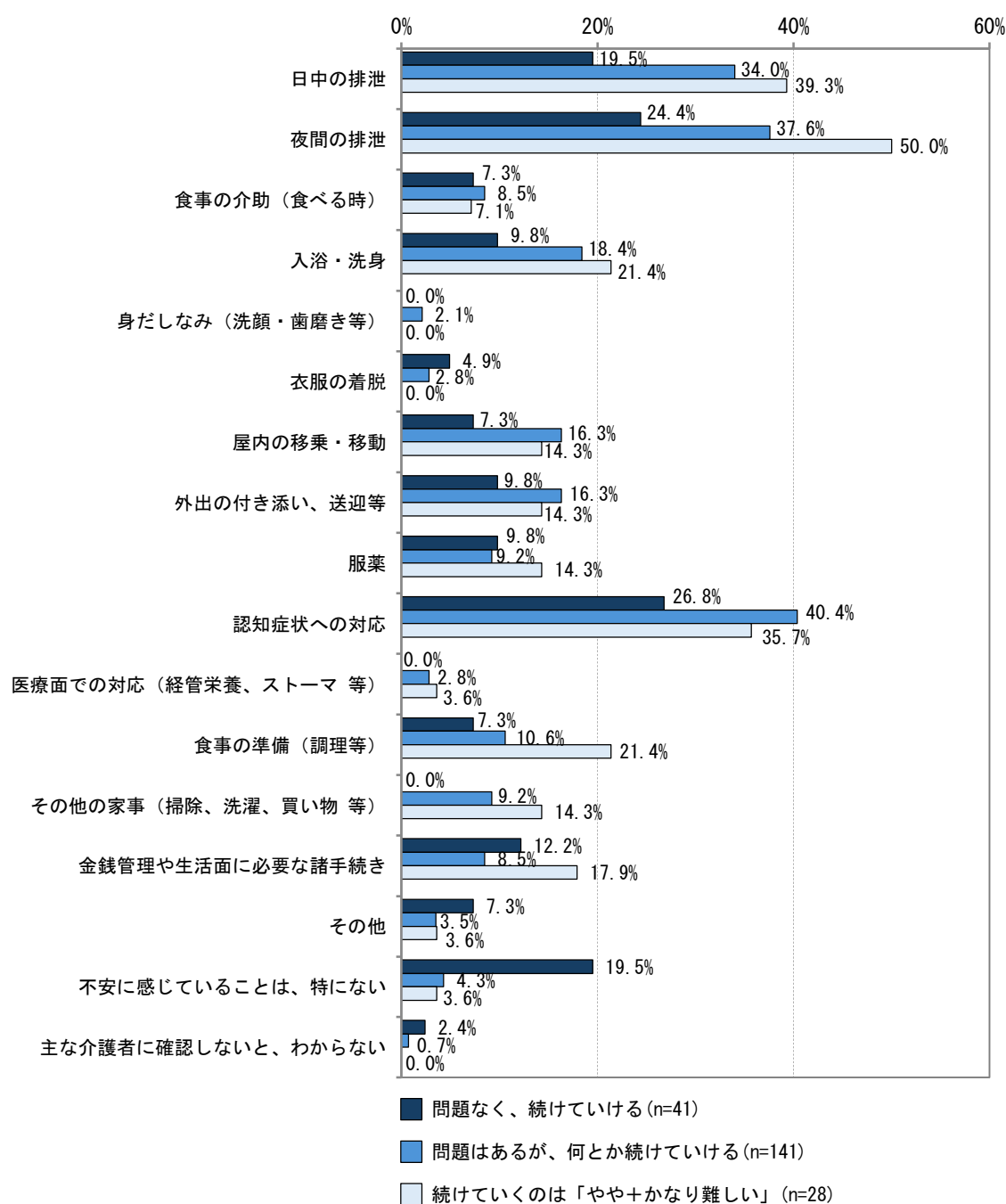
(3) 就労状況とサービス利用の関係

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が49.7%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.0%、「未利用」が19.7%となっています。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が52.7%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.8%、「未利用」が17.8%となっています。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が46.1%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が23.8%、「未利用」が20.3%となっています。



（４）就労継続見込みと介護者が不安に感じる介護の関係

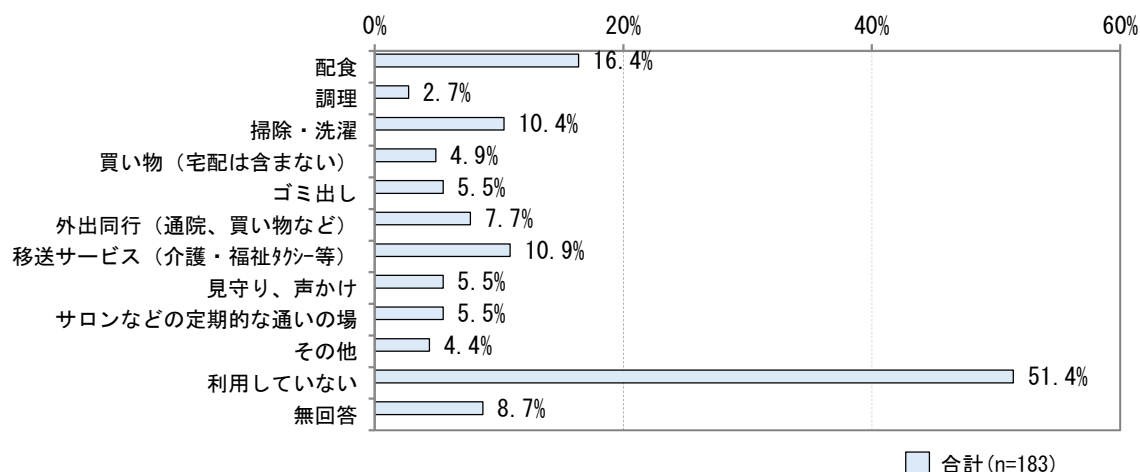
フルタイムもしくはパートタイム勤務をしている介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「認知症状への対応」が26.8%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が24.4%、「日中の排泄」と「不安に感じていることは、特にない」がそれぞれ19.5%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が40.4%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が37.6%、「日中の排泄」が34.0%となっています。「続けていくのは『やや+かなり難しい』」では「夜間の排泄」が50.0%で最も高く、次いで「日中の排泄」が39.3%、「認知症状への対応」が35.7%となっています。



（５）フルタイム勤務による介護保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる介護保険外の支援・サービス

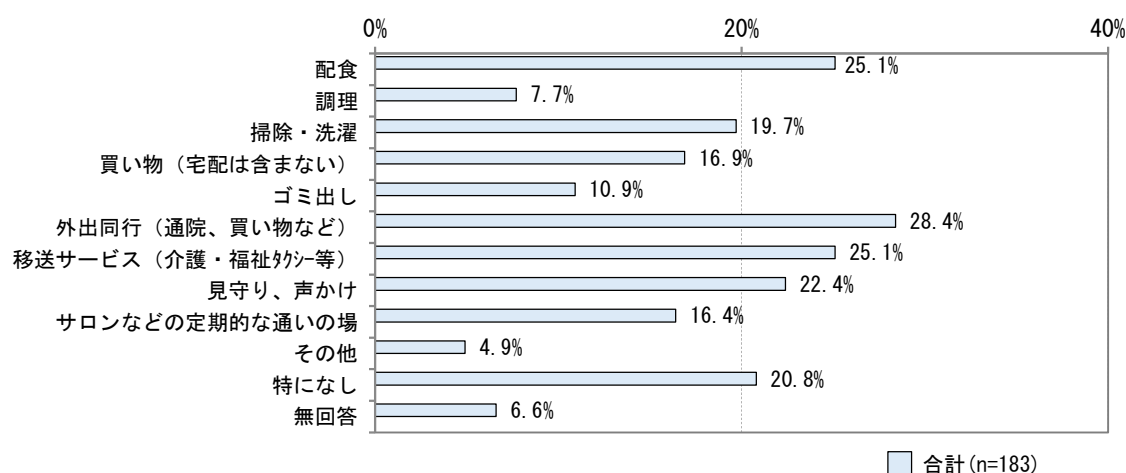
① 介護保険外の支援・サービスの利用状況(フルタイム勤務)

フルタイム勤務の介護者が利用している介護保険外の支援・サービスについて、「利用していない」が51.4%で最も高く、次いで「配食」が16.4%、「移送サービス」が10.9%となっています。



② 在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)

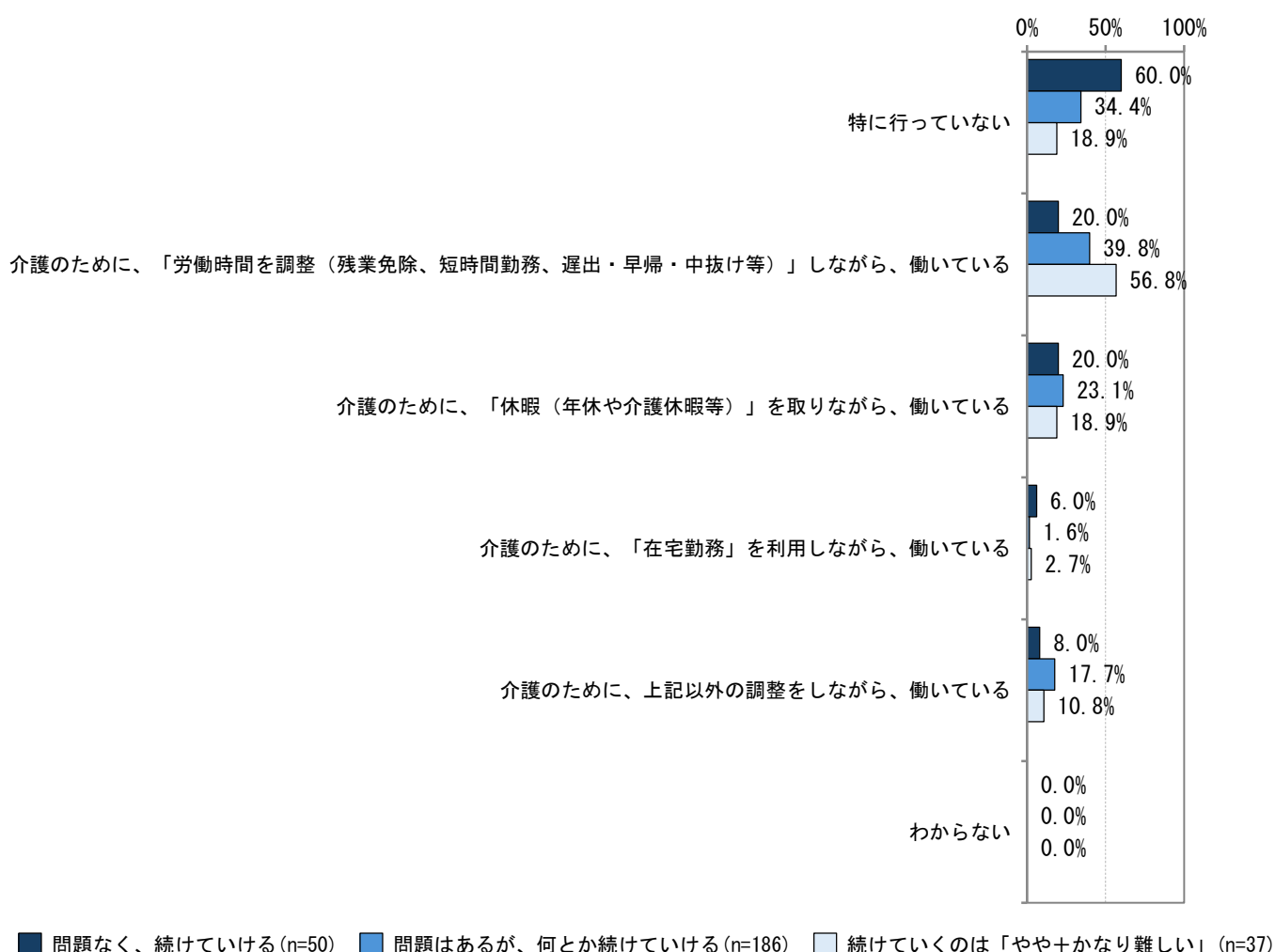
フルタイム勤務の介護者が在宅生活の継続に必要と感じている介護保険外の支援・サービスについて、「外出同行（通院、買い物など）」が28.4%で最も高く、次いで「配食」と「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がそれぞれ25.1%となっています。



（６）就労継続見込みと介護のための働き方の調整、効果的な勤め先からの支援の関係

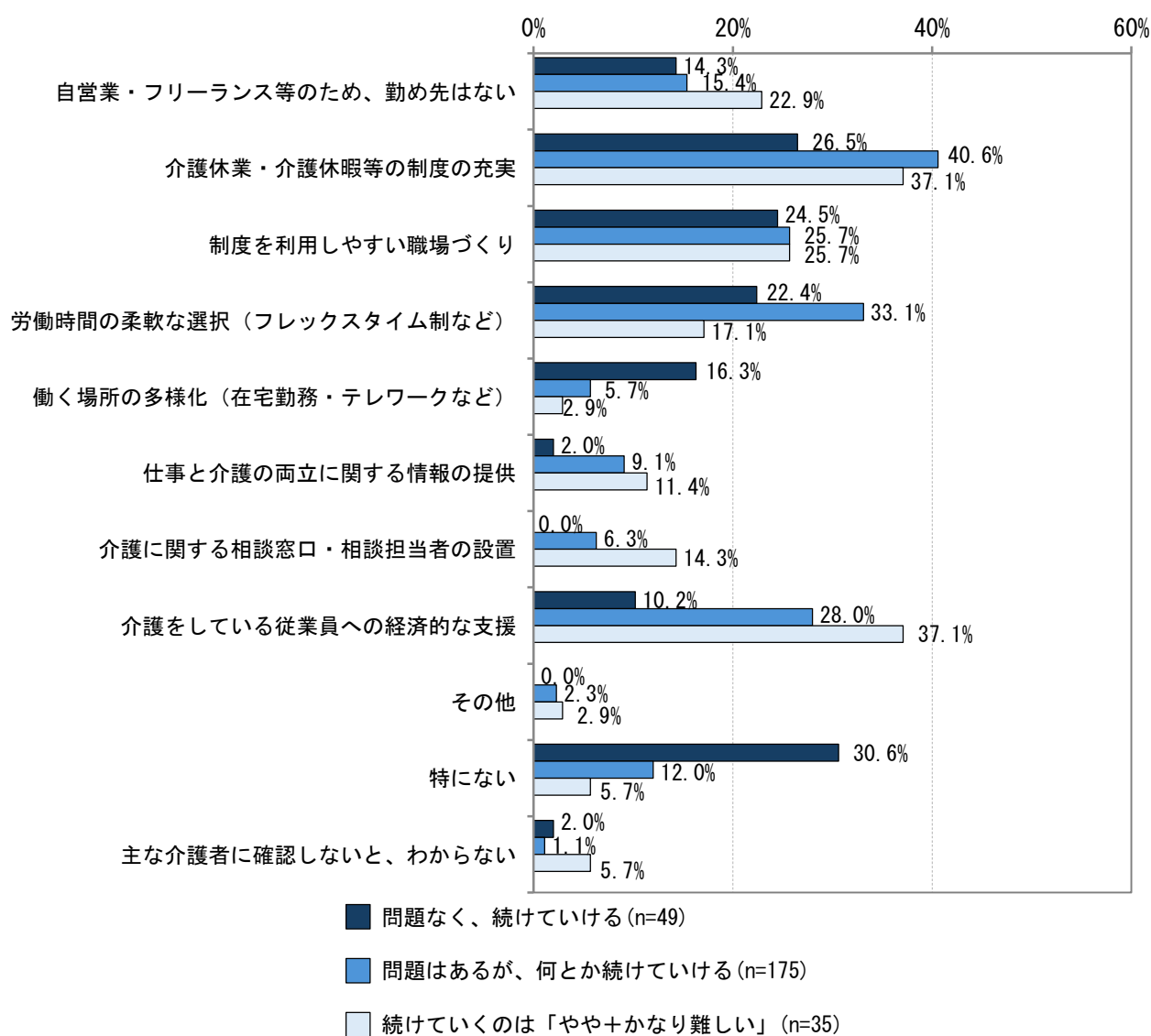
① 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が60.0%で最も高く、次いで「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」がそれぞれ20.0%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が39.8%で最も高く、次いで「特に行っていない」が34.4%、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」が23.1%となっています。「続けていくのは『やや＋かなり難しい』」では「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が56.8%で最も高く、次いで「特に行っていない」、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」がそれぞれ18.9%となっています。



② 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

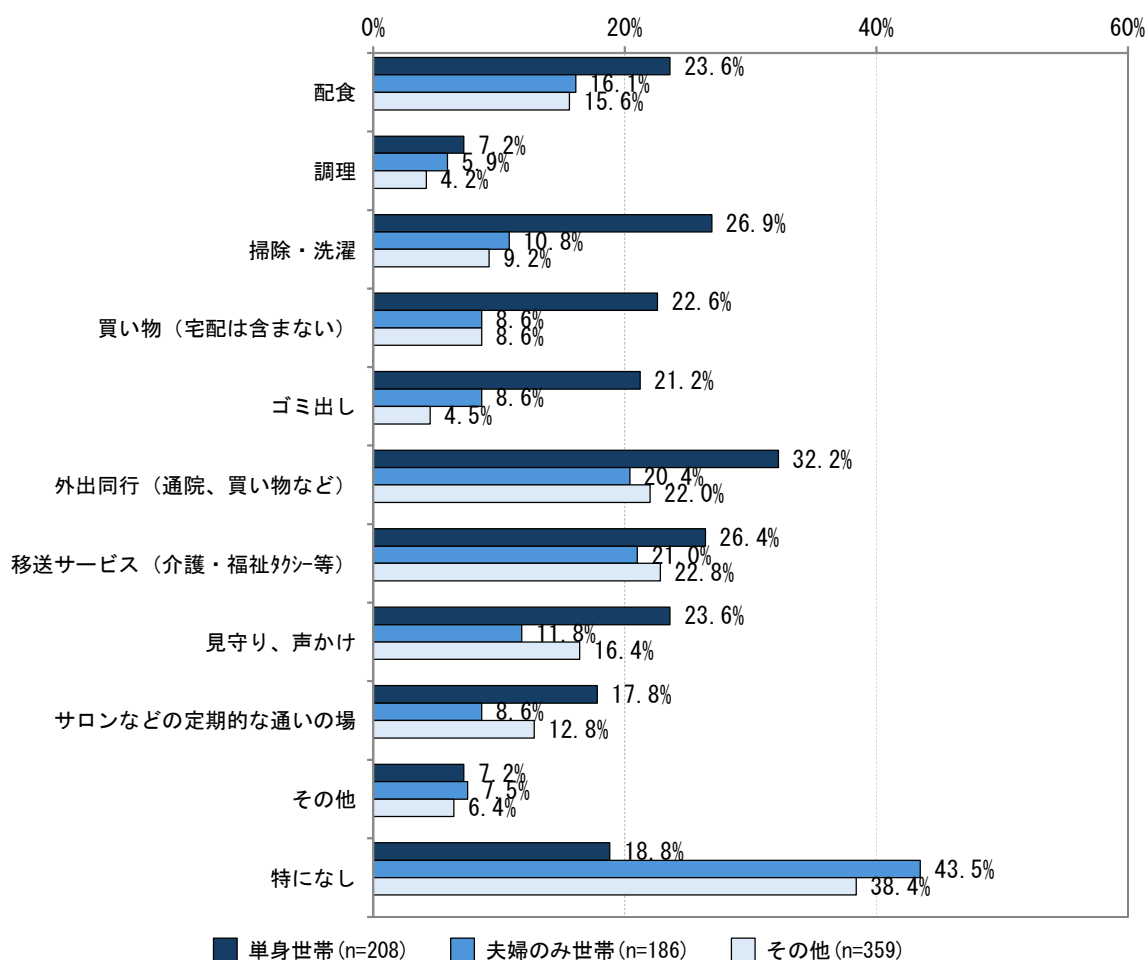
効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が30.6%で最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.5%、「制度を利用しやすい職場づくり」が24.5%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が40.6%で最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が33.1%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が28.0%となっています。「続けていくのは『やや＋かなり難しい』」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「介護をしている従業員への経済的な支援」がそれぞれ37.1%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が25.7%となっています。



3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

(1) 世帯類型と必要と感じる支援・サービスの関係

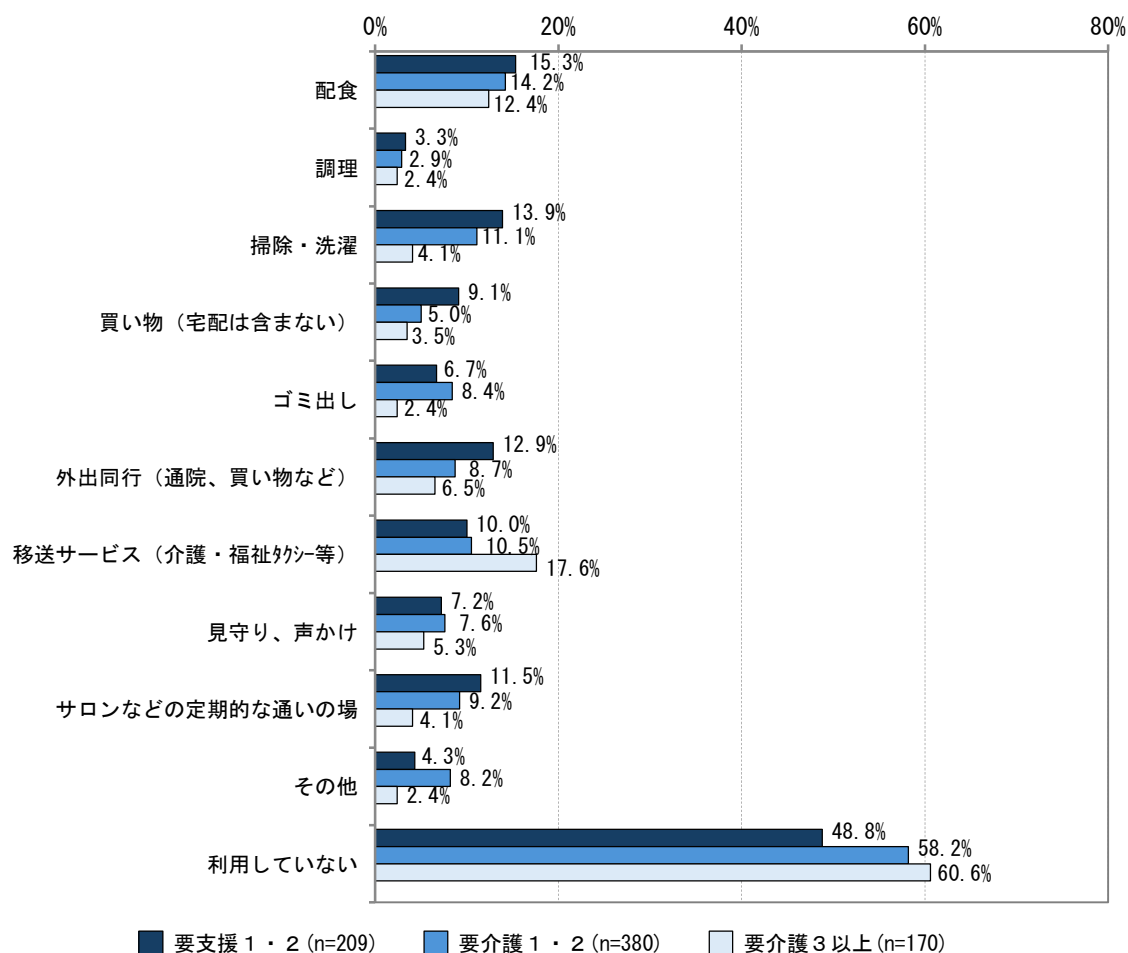
保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「外出同行（通院、買い物など）」が32.2%で最も高く、次いで「掃除・洗濯」が26.9%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.4%となっています。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が43.5%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が20.4%となっています。「その他」では「特になし」が38.4%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が22.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が22.0%となっています。



（２）要介護度別の、介護保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

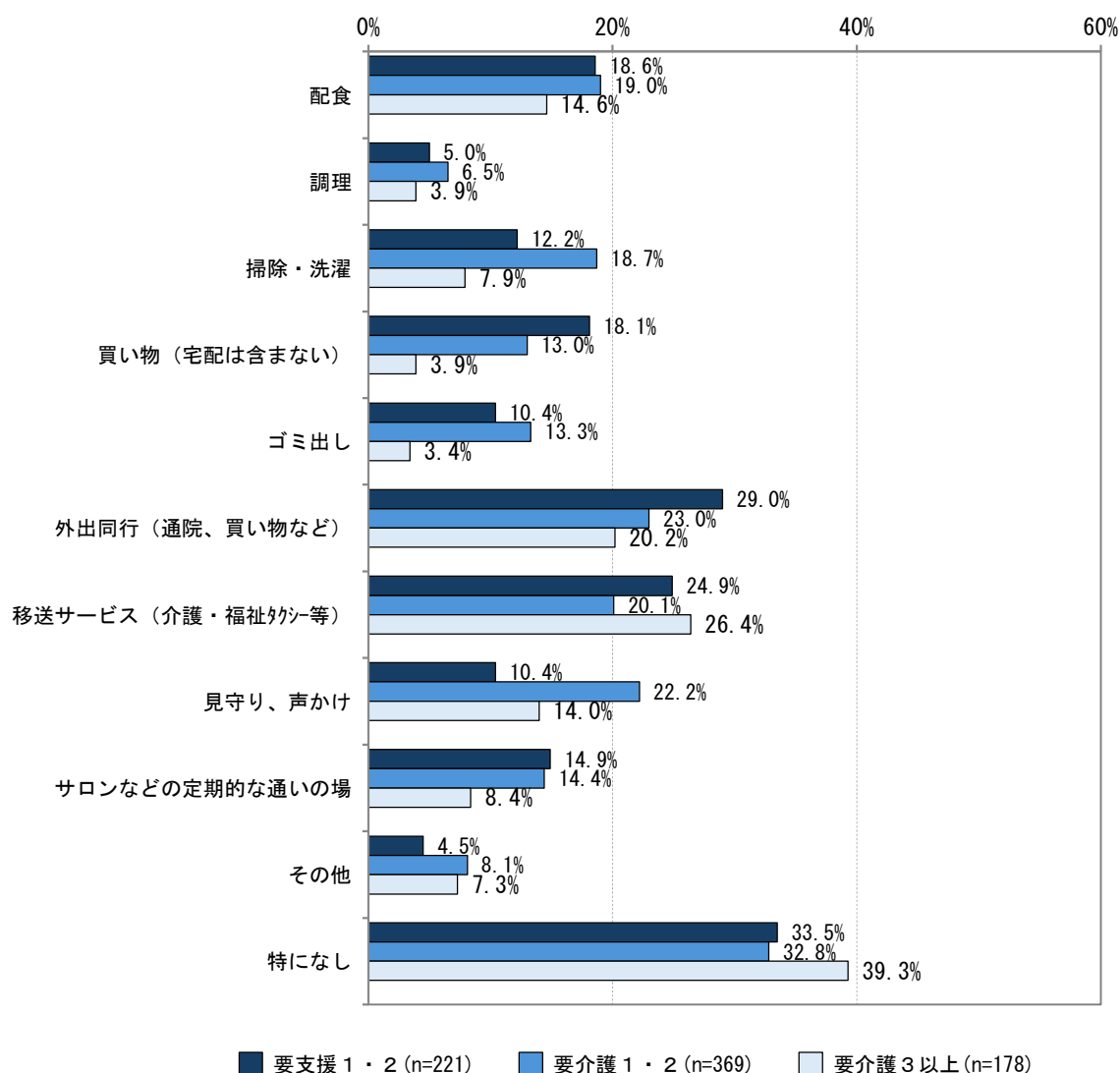
① 要介護度別介護保険外の支援・サービスの利用状況

保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が48.8%で最も高く、次いで「配食」が15.3%、「掃除・洗濯」が13.9%となっています。「要介護１・２」では「利用していない」が58.2%で最も高く、次いで「配食」が14.2%、「掃除・洗濯」が11.1%となっています。「要介護３以上」では「利用していない」が60.6%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が17.6%、「配食」が12.4%となっています。



② 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が33.5%で最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が29.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が24.9%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が32.8%で最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が23.0%、「見守り、声かけ」が22.2%となっています。「要介護3以上」では「特になし」が39.3%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.4%、「外出同行（通院、買い物など）」が20.2%となっています。

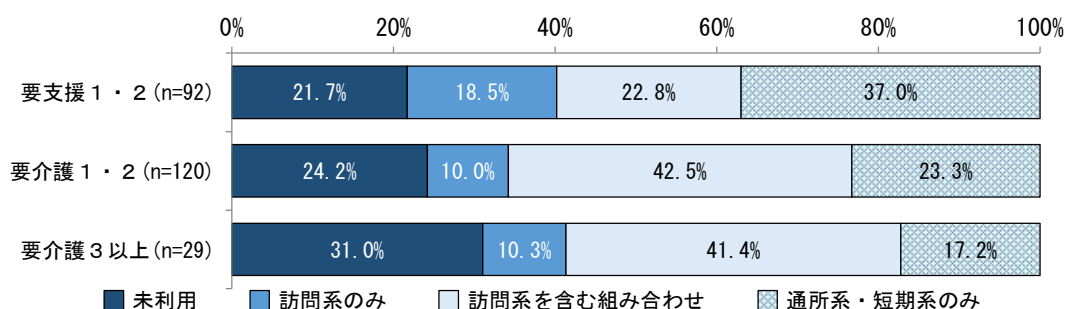


4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 要介護度別の世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

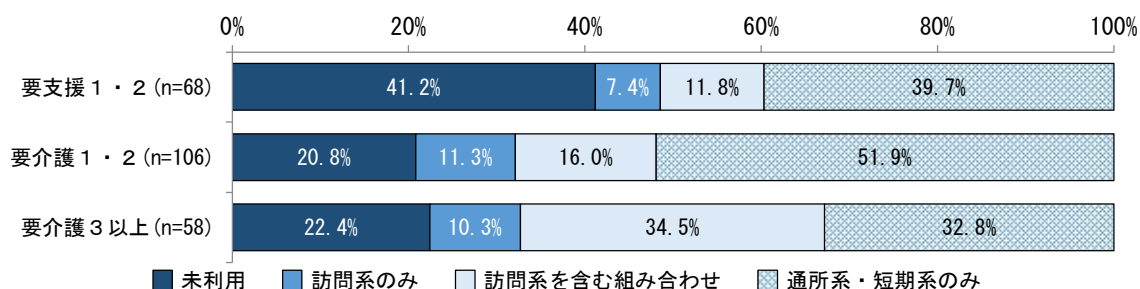
① 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)

サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が37.0%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.8%、「未利用」が21.7%となっています。「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が42.5%で最も高く、次いで「未利用」が24.2%、「通所系・短期系のみ」が23.3%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が41.4%で最も高く、次いで「未利用」が31.0%、「通所系・短期系のみ」が17.2%となっています。



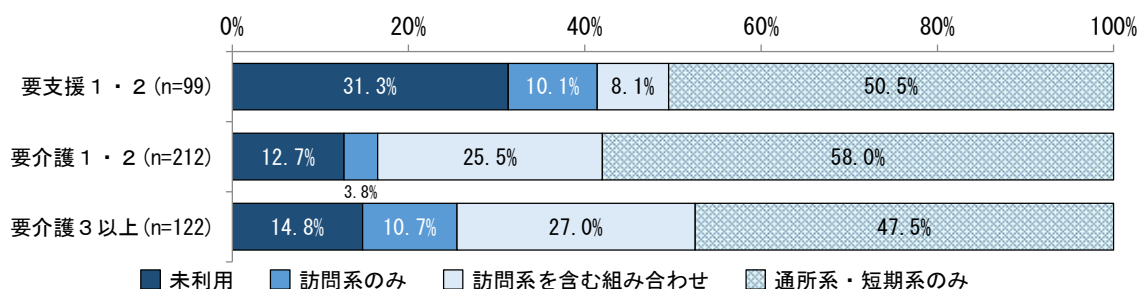
② 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)

サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が41.2%で最も高く、次いで「通所系・短期系のみ」が39.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が11.8%となっています。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が51.9%で最も高く、次いで「未利用」が20.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.0%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が34.5%で最も高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.8%、「未利用」が22.4%となっています。



③ 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）

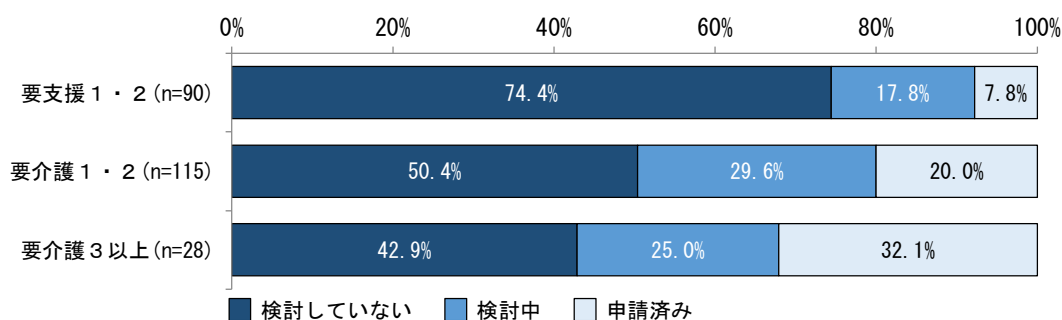
サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援１・２」では「通所系・短期系のみ」が50.5%で最も高く、次いで「未利用」が31.3%、「訪問系のみ」が10.1%となっています。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が58.0%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.5%、「未利用」が12.7%となっています。「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が47.5%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.0%、「未利用」が14.8%となっています。



（２）世帯類型別の要介護度別の施設等への入所・入居の検討の状況

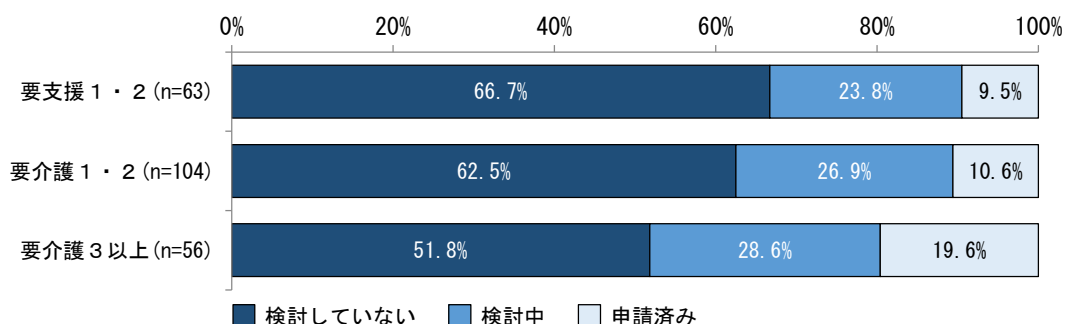
① 要介護度別・施設等への入所・入居の検討の状況（単身世帯）

単身世帯における施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が74.4%で最も高く、次いで「検討中」が17.8%、「申請済み」が7.8%となっています。「要介護１・２」では「検討していない」が50.4%で最も高く、次いで「検討中」が29.6%、「申請済み」が20.0%となっています。「要介護３以上」では「検討していない」が42.9%で最も高く、次いで「申請済み」が32.1%、「検討中」が25.0%となっています。



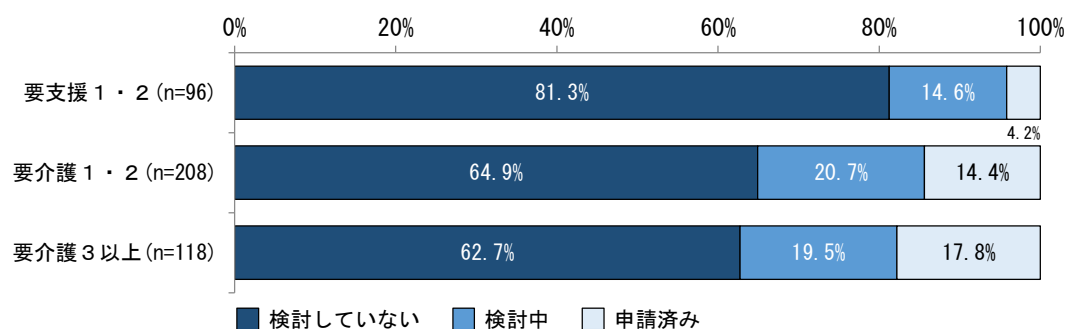
② 要介護度別・施設等への入所・入居の検討の状況（夫婦のみ世帯）

夫婦のみ世帯における施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が66.7%で最も高く、次いで「検討中」が23.8%、「申請済み」が9.5%となっています。「要介護１・２」では「検討していない」が62.5%で最も高く、次いで「検討中」が26.9%、「申請済み」が10.6%となっています。「要介護３以上」では「検討していない」が51.8%で最も高く、次いで「検討中」が28.6%、「申請済み」が19.6%となっています。



③ 要介護度別・施設等への入所・入居の検討の状況（その他世帯）

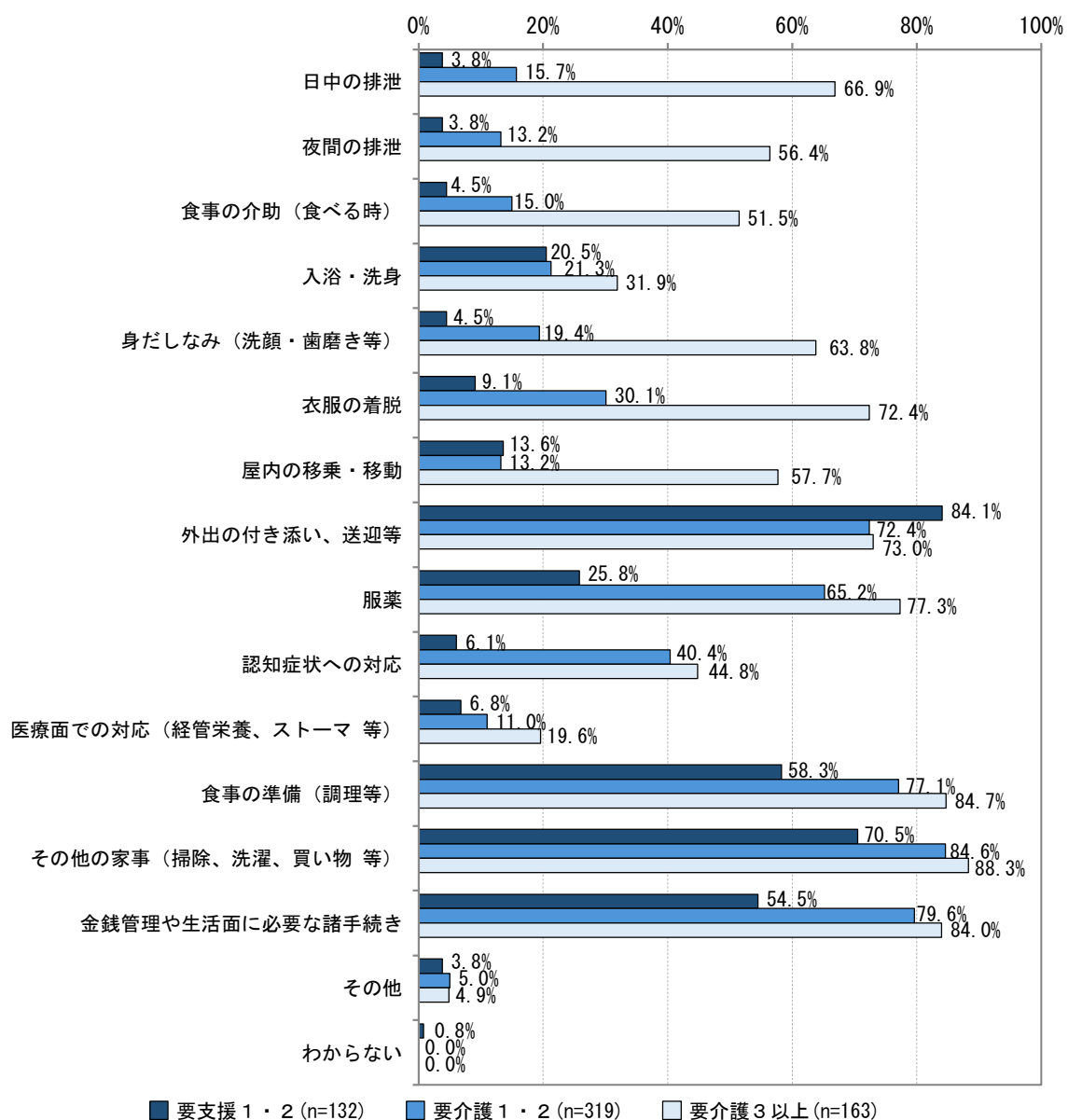
その他世帯における施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が81.3%で最も高く、次いで「検討中」が14.6%、「申請済み」が4.2%となっています。「要介護１・２」では「検討していない」が64.9%で最も高く、次いで「検討中」が20.7%、「申請済み」が14.4%となっています。「要介護３以上」では「検討していない」が62.7%で最も高く、次いで「検討中」が19.5%、「申請済み」が17.8%となっています。



5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

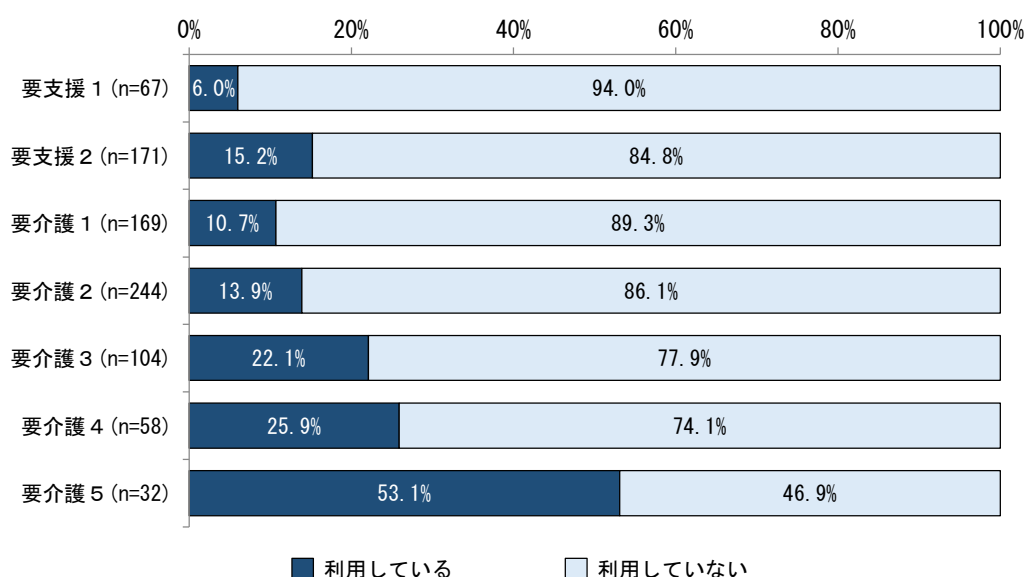
(1) 要介護度と主な介護者が行っている介護の関係

介護者が行っている介護を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が84.1%で最も高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が70.5%、「食事の準備（調理等）」が58.3%となっています。「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が84.6%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が79.6%、「食事の準備（調理等）」が77.1%となっています。「要介護3以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が88.3%で最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」が84.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が84.0%となっています。



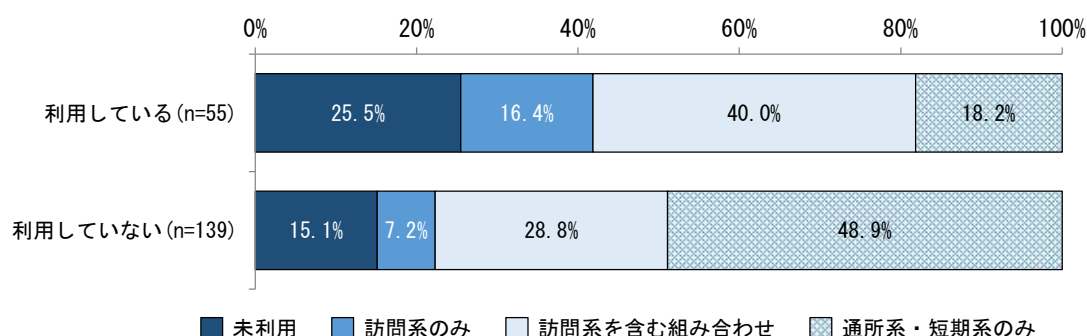
(2) 要介護度別の訪問診療の利用割合

訪問診療の利用の有無を要介護度別にみると、「要支援1」では「利用していない」が94.0%、「利用している」が6.0%となっています。「要支援2」では「利用していない」が84.8%、「利用している」が15.2%となっています。「要介護1」では「利用していない」が89.3%、「利用している」が10.7%となっています。「要介護2」では「利用していない」が86.1%、「利用している」が13.9%となっています。「要介護3」では「利用していない」が77.9%、「利用している」が22.1%となっています。「要介護4」では「利用していない」が74.1%、「利用している」が25.9%となっています。「要介護5」では「利用している」が53.1%、「利用していない」が46.9%となっています。



(3) 訪問診療の利用の有無とサービス利用の組み合わせの関係

要介護3以上におけるサービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が40.0%で最も高く、次いで「未利用」が25.5%、「通所系・短期系のみ」が18.2%となっています。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が48.9%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.8%、「未利用」が15.1%となっています。



6. サービス未利用の理由

(1) 要介護度別・サービス未利用の理由

未利用の理由を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が58.0%で最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が22.7%、「本人にサービス利用の希望がない」が19.3%となっています。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が41.0%で最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が26.1%、「本人にサービス利用の希望がない」が20.1%となっています。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が42.0%で最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が28.0%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が18.0%となっています。

